

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100618		
法人名	社会福祉法人 広和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの青葉	ユニット名	壱番館
所在地	宮崎市宮崎駅東三丁目9番10		
自己評価作成日	平成25年7月23日	評価結果市町村受理日	平成25年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosvCd=4590100618-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosvCd=4590100618-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年8月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

都市型の施設であり、アクセスも良く、家族の面会が多い。室内が広く明るい空間が提供できている。  
 施設が4階にあるので、お天気が良い日は屋内運動場に出て、風を感じることも出来る。館内が広い為、イベントなどが実施しやすく、ユニット内・外で行事を楽しむことができる。敷地内にのぞきクリニックが開院しており、内科・整形外科がスムーズに受診でき、利用者、家族の安心を得ている。  
 特養等との併設による人的・物的協力体制が図れている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

社会福祉法人が平成23年8月に開設した2ユニットのグループホームである。4階建の最上階にグループホームがあり、同じ建物にデイサービス、居宅介護支援事業所、介護老人福祉施設等が、また、同じ敷地内に医療機関が設置されている。市の中心部に位置して利便性が良く、家族の来訪が多いホームである。「専門的かつ質の高いサービスの提供、地域社会に貢献」という理念の下、管理者および職員は、ケアサービスの向上に努めている。利用者や家族の意向を尊重し、意見を反映させたホームの運営をしている。年間計画を立て、行事や避難訓練等がきちんと実践されており、利用者が安心して生活できる場になっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内に掲示し、毎朝の朝礼でも理念の唱和を行うことで、職員は意識の確認し、実践につなげている。	社会福祉法人全体の理念および5つの基本方針が作成されている。「質の高いサービスの提供と地域社会に貢献する」という理念の下、職員は日常的に理念を確認、共有して、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域に根差した取り組みを行っている。花見、散歩、公共施設見学等を行っている。	自治会に加入し、先ず職員が行事(夕涼み会など)に参加して、利用者のための準備をしている。避難訓練には地域の住民も参加して、起震車の体験をしてもらうなど、地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人建物内に地域交流センターを設けており、地域の方々の利用が可能になっている。認知症を抱えている入居者への取り組みを、隔月1回の運営推進会議を通して伝えている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事の取り組み状況等を報告している。内容についての質問されることもあり、地域の方々が施設に感じている疑問にお答えすることもある。	運営推進会議では、ホームの活動状況報告や防災に関する協議等を行っている。避難について、利用者が避難した後の保護は地域の住民が協力する旨の意見が出るなど、ホームの運営に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故報告等について連携を図っている。災害時の避難場所として、宮崎市と福祉避難場所の締結を行っている。	市担当者には、事故報告等について説明している。ホームは市の福祉避難場所になっており、地域社会に貢献するという理念の下、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止は十分に理解できている。建物の構造上、離設後の転落防止の意味から玄関の施錠をしているが、利用者も家族も簡単に開錠できる仕組みとなっている。身体拘束禁止の原則に則り、実施していない。	ホームは4階にあり、事故防止のため入口の引戸は施錠しているが、利用者も家族も開錠可能な状況である。職員は施錠しない時間帯を設けるための検討をしており、身体拘束をしないケアについても理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でお互いに気を付けあうように毎回話し合い、注意し合える関係作りに努め、全員で虐待行為に至らないように実践している。全体職員会議で、高齢者虐待についての研修会が実施され、参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が1名おられ、家族から実情を聞く機会がある。職員は、制度の理解を深めるため研修に参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に職員との面接や施設内見学を実施し、十分な説明を行っている。家族の疑問や不安に対応できるように話し合いの場を設け、その為の面談室も設けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、園内外行事等で居室担当を中心に家族とのコミュニケーションをとるように心がけている。意見箱を設置し、それらの案内も行っている。		法人全体で利用者や家族等の意見を大切にしており、意見箱を設置して、意見があれば丁寧に回答し、全ての回答書を公開している。ホームでは、家族から米飯が硬いのではとの意見があり、水加減の微調整を何度もするなどの努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH職員会議を通し、意見や要望を確認し、対応している。また、全体リーダー会議でその内容を報告している。新しい取り組みは起案し、承認を得て実施し、サービス向上に反映している。		月1回の職員会議では、職員から積極的に意見が出ている。法人全体の会議もあり、職員の意見を聞く機会を設けている。ホームの入口の開錠について、職員が現在検討しており、運営に反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同上。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に年1回は参加できるように努めている(GH連絡協議会に加入し、認知症についての研修が年1回は参加できるように取り組んでいる)。法人内研修も月2回程計画されていて、参加を促している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に加入しており、研修会参加時に、他事業所の方との交流や情報交換を行うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接等で、本人様とよく話し合い、本人様の不安を感じられる場面等を想定し、その対応を話し合い実践につなげている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や施設見学時に相談や話し合いを行っている。また、居室担当を中心に、家族の要望や不安を聞き取りし、他職員にも伝達して情報の共有を図り、家族への安心を提供できるように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に入所することが良いのか否かを居宅支援事業所のケアマネや家族と十分に協議して、意見交換を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たみ、食器洗い、リネン交換など、「みんなですれば早く終わりますが」と一緒に取り組むことが定着してきている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の家族の参加率が高いので、関係は良好と思われる。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出に関しては、家族の協力を得て、付き添って頂くようにしている。	墓参りに関しては、家族が同行している。知人(近所の方)の来訪もあり、なじみの人との関係継続を支援している。家族から提供された昭和初期の映像(DVD)を見る機会を設けるなど、工夫をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「一緒に行きましょうや」とお互いに行事への参加の呼びかけを職員に代わって頂き、行事への参加がスムーズになっている。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にその方の施設を訪ね、お話に行くことがあった。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との良質な関係が築けているので、今後も介護計画に活かしていく。		利用者と職員との日常の会話や家族から話を聞くことで、思いや意向の把握に努めている。食事に関しては、好きなもの調査を実施して、利用者の希望に沿った献立を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から得た情報については記録を残し、情報の共有をしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実施できたことや発言等を記録に残し、情報を各職員が確認し、把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員の気づきにより、それらを介護計画に反映している。また、家族との会話の中からも家族の意見や希望を探り、介護計画に反映している。		職員が利用者の日々の生活を記録し、その記録を介護計画の作成に反映させている。家族の意見も取り入れている。利用者から「冷や汁を作りたい」という希望があり、実現させるための介護計画を考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った個別記録を行い、介護計画の有効性が確認できるようになってきている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設利用中にも、利用者を取り巻く環境に悩まれることがあるので、お話を聞くことがある。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設を活用して、外出行事で地域の自然に触れる機会を設けている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にのざきクリニックが開院していることから、気軽に病院受診や内服薬の相談ができ、家族にも安心して頂いている。	同じ敷地内にクリニックがあり、掛かりつけ医として受診する利用者が多い。受診は家族が同行している。医療との連携の下、利用者および家族が安心して生活できる環境にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱時や急変時は、法人内看護師にすぐに連絡できる状態であり、受診も行えるようになっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は週に1回程度面会に伺い、本人の状態を確認したり、家族に連絡し、入院中の状況確認を行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院や体調不良をきっかけに、重度化してる利用者が複数おられるが、本人の状態把握をしながら、家族にそのことをこまめに説明するようにしている。	「看取りに関する考え方、本人および家族との話し合いや意思表示の方法等の看取りに関する指針」を作成し、契約時に説明している。利用者の状況変化時には、家族と話し合いをしながら希望に添った支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応に関するマニュアルを作成しており、それに基づき実践している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で実施する災害訓練、避難訓練に参加し、各職員がその場に遭遇した時の事を想定し、訓練に臨んでいる。	法人全体で災害訓練、避難訓練、防災会議等を年間計画で実施している。起震車による体験も利用者、職員、地域住民が参加している。食糧や水の備蓄もあり、災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人理念のとおり、人権尊重を旨として、取り組んでいる。実態的には常に家族等の第三者が会話を聞いていることを意識して、声掛けを行うように、全員で取り組んでいる。	法人理念の基本方針に「利用者の権利を尊重」があり、接遇(言葉使い、態度)を大切にしている。トイレ誘導は小声で行い、ドアを閉めて見守るなど、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択しやすい言葉かけの工夫を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴については、気分に合わせて実施。レクリエーションも本人の希望で参加を決めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お気に入りの衣類やアクセサリ、口紅をはじめとする化粧品を準備頂いている。パーマ、染髪の支援も行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前述のとおり、食器の準備や片付けを手伝って頂いている。また、ソフト食の提供をする等、食べやすい状況を作っている。	一括調理であるが、利用者と職員と一緒に盛りつけや片づけをしている。利用者の状態に合わせてソフト食、また、年間を通して行事食を提供するなど、食事を楽しむ支援をしている。好きなもの調査を行い、利用者の希望を尊重している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量は記録をつけて一日の合計量がわかるようにし、不足が出ないように注意している。水分量の少ない利用者は、家族に説明を行い、好まれる水分を用意して頂いて、その確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一度歯科往診と口腔ケアに来て頂き、職員は口腔ケアの指導も受けている。要介助者は毎食後、口腔ケアを実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせた誘導を行っている。		居室と居室の間にトイレがあり、排せつの自立に配慮した構造になっている。排せつチェック表を参考に、トイレ誘導を行っている。職員は排せつの自立について理解しており、利用者が快適な生活ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量は記録をつけて一日の合計量がわかるようにし、不足が出ないように注意している。一日一回、体操が実施できるように取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を好む方が多く、入浴拒否はあまりない。体調に合わせて自己にて決めて頂くようにして、中止を決められた場合は下着の更衣を促し、後日入浴の調整を行っている。		利用者は入浴を楽しみにしており、意向に沿った支援をしている。同性介助を希望する場合は、対応している。季節により、ゆず湯を提供するなど配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝される方が複数おられるが、夜間不眠は見られない。一人ひとりのペースで就寝が行えている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧表は確認できるようにしており、副作用についても記載し、服薬についての確認ができるようになっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな飲み物、好きな踊りや歌を楽しんで頂いている。家事は得意な利用者が複数おられ、一緒に取り組むことで、達成感を感じて頂けるようになってきている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ボランティアの協力を得て、外出する機会が設けられた。家族も施設で落ちついて生活されている利用者を見て自宅へ帰られたり、外食に出られるようになっている。		ホームに近い商業施設への買物支援、花見などの外出支援を行っている。同じ階にある喫茶・談話コーナーや屋内運動場を利用して、屋内でも利用者が楽しめるように工夫している。	家族やボランティアの協力を得て、更なる利用者の外出支援を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	壱番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設に持ち込まれない方が多い。所持されている方は、時々ジュースを購入されることがあるが、職員が付き添い行う。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙のやり取りをしている方がおられる。年賀状を作成し、家族宛に送付した。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内温度は、利用者に確認し、空調の調節を行っている。食堂は一日2回程度掃除を行い、清潔を保つようにしている。	室内温度は26～27℃に設定し、テレビの音量も調整し、利用者が快適に過ごせるように配慮している。居間兼食堂には観葉植物を置いて、居心地のよい空間になるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	観葉植物を活用するなどして、安心空間づくりに努めている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな音楽が聞けるようにラジカセを用意したり、鉢植えやソファを持ち込まれ、ゆつくりできる空間になっている。	居室の入口には、利用者の家族が用意した「のれん」が掛けられており、それぞれ個性豊かな雰囲気のある居室になるように工夫をしている。なじみの物を持ち込み、落ち着いて生活できるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ソファの位置やテーブルの位置を変更するなどしている。			